

## 市神様の由来

梓衝新田屋敷は、その昔、梓衝神社の祭礼に奉納する新米を作る田があつたので、神田といわれたが、いつしか新田と呼ばれるようになった。屋敷の西端にある板碑を、市神様と呼んでいる。

この石板は、昔、屋敷中央の三叉路の南側にあつたもので、行商人の信仰が厚かつたといわれる。

年二回、旧盆十二、三日と暮の二十八、九日の日に市神様を挟んで、道の南側に大道商人の開店があつて市が開かれた。盆と正月の用品を買うため、近隣の村々から人出があり、相当なにぎわいぶりを見せたといわれる。

※ 祖母よりの口伝による。(話者 円谷 実)

市神様



## 御祈禱餅の話

《矢田野》

矢田野部落に旧歴八月十九日夜から翌二十日夜まで、熊野様を祭るご祈禱餅つぎの習慣がある。これは矢田野部落本戸数約百十戸を四組に分け、各組約二俵のもち米をつくつもので、もち米、薪、味噌など